

飛騨市まちづくりレシピ

まちづくりって特別なことじゃなく、みんなの暮らしがちょっと豊かになる活動。
飛騨市内で活動されているまちづくり団体を紹介していきます。
気になる活動があれば、気軽に参加してみませんか？

ひだプラス
HIDAPLUS

活動も人間関係もすべて
つながる、つなげる

飛騨市地域おこし協力隊

ながいし
永石

ともき
智貴さん

飛騨市うまいお米アワード 2021



▲地域おこし協力隊の永石智貴さん



▲グッドデザイン賞受賞しました！



▲美術館で展示準備のお手伝い♪

「まずはみんなに覚えてもらいたいのので全身赤い恰好をするようになりました」と語ってくれたのは、2020年7月に飛騨市に移住し、飛騨市の関係人口プロジェクト『ヒダスケ!』を担当している地域おこし協力隊の永石智貴さんです。

永石さんは愛知県生まれ。高校卒業後は長野県の大学に進学し、繊維について学び、新素材の開発などを行っていました。繊維の細さ一つで機能に違いがあり、知らない事を学んでいくのが楽しかったそうです。卒業して博士までいきましたが、教育分野にも興味を持ち始めた永石さん。『その時に興味ある事、やりたいと思ったことはすぐやろう』と考え、今はもっと繋がりを作りたい、情報集めをしたいと大学を途中で辞め東京に行き、中高生の授業サポートや相談活動を始めました。その中で『教育はどの分野にも関わっている』と感じ、興味ある場所には自ら足を運んで繋がりを作っていました。

東京で2年間過ごし、次は地方に行っておかやりしたいと思っていたところ、東京で開かれたイベントで飛騨市の職員と出会い、それが飛騨に来るきっかけとなりました。飛騨市については、東京で関わっていた企業の繋がりで知っていましたが、何より関係人口という分野に興味があったこと、市の取り組みが活発だったことに魅力を感じたそうです。

移住後はまずは市民の方に覚えてもらう工夫をしました。誕生日が11月11日なので『ポッキー』と呼んでもらうこと。すれ違っただけでも覚えてもらえるように最初は赤いTシャツで活動を始め、徐々にズボン、ジャケット、靴、バック、メガネと全身赤色で活動するようになりました。今では家の中の物もどんどん赤が増えているそうです。

協力隊としては、『ヒダスケ!』をメインにプログラム作り、参加者集め、SNSでの発信、当日の運営サポートなど全般を行っています。これは飛騨市の人がちょっとやってみたいことや困りごとを飛騨市と関わりたい人に助けてもらう関係人口を増やすための取り組みで、昨年グッドデザイン賞を受賞しました。「評価されて嬉しい。価値ある取り組みだと再認識できたので、もっと広めたい」と意気込んでいます。

プライベートでは、仲間を集めてお米を作ったり、中高生と一緒にイベントをやったりと常に企画運営をやっているようですが、永石さんにとっては趣味の一つ。いつかは自分の作ったお米で美味しいご飯を提供できるキッチンカーを立ち上げ、いろんな世代の人が集まる場の繋げ役をしていきたいそうです。

「仕事もプライベートも今やっていることは全てが繋がっていると思うので、それぞれ絡めながらやっていきたいです」と永石さん。今後の活動が楽しみです。

基本情報

着任：2020年7月
活動地域：飛騨市内
主な活動：ヒダスケ(プログラム作り、活動紹介、運営サポート)

▼トマトの苗植えのお手伝い♪



▲初めてのお米作り!手作業で頑張りました!

飛騨市のまちづくり最新情報はこちら▶

<https://www.city.hida.gifu.jp/site/hidaplus/>

